

社会医療法人 泉和会「千代田病院」(宮崎県日向市)

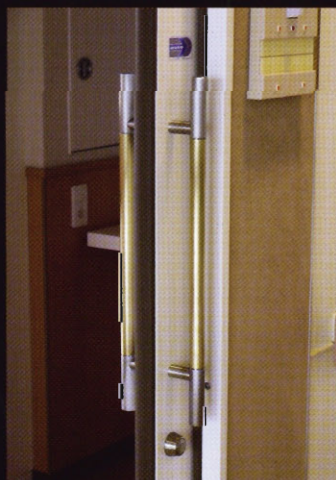
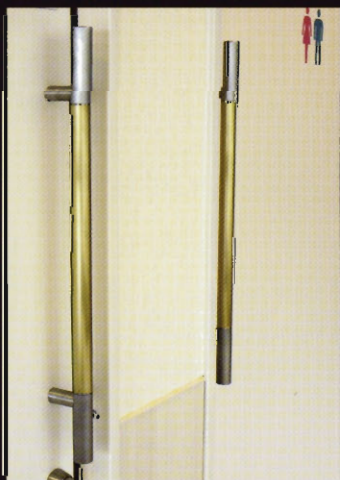
日向・入郷地区の救急医療に貢献する中核病院として新病院を建設



千代反田 晋理事長

院内感染のリスク低減へ

新病院の530箇所以上で銅部材を採用



LOOK
1

つねに地域の人たちに
新しい医療と技術を提供できるように

宮崎県日向市の中心部にある「千代田病院」は、昭和35年に千代田外科病院として開業以来、50余年間、つねに日向市、入郷地区の医療発展に貢献し続けてきた。

その基本方針は大きく5つ。「緊急医療の推進／専門性を追及した新しい良質な医療の提供／患者さんの権利を尊重した医療／地域のみなさまの健康増進、疾病予防／他の医療機関と連携した患者さんにより適した医療の提供」である。

現在は、19の診療科を持ち、一般病床161床、亜急性期病床15床、医療療養病床44床、常勤医19名、非常勤医30名の体制で通常診療はもちろん、時間外救急にも可能な限りの対応を行い、他病院とも連携しながら日向市、入郷地区での救急医療の安定提供に尽くしている。その実績により、平成21年には、宮崎県としては初の社会医療法人に認定された。

...

そんな千代田病院が「より患者さんの要求に応えられる衛生的で安全な医療環境」を実現するため、新病院を建設した。新病院の場所は、いまの病院から2kmほど離れた日向市知屋。2012年6月に建築が終わり、7月に開院した。

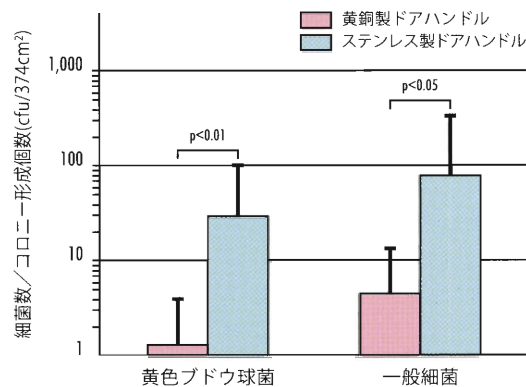
この新病院は、地域住民はもちろん、世界中の医療関係者からも注目されている。その理由は「200床を超える大型病院では世界初となる大量の銅部材の採用」にある。

銅の抗菌・殺菌作用による院内感染対策に着目された千代反田晋理事長は、2010年7月より銅の抗菌・殺菌作用について院内で実験検証を行い、その実証データをもとに、新病院のドアノブやハンドルなど計530箇所以上に銅部材の導入を決断された。約1トンもの大量の銅部材の導入で、院内感染のリスク低減を図るこの試みは、多くの医療関係者が期待、注目するものとなっている。

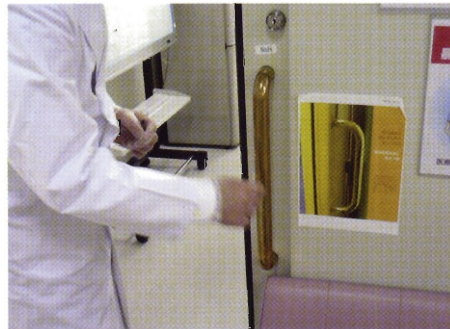
LOOK
2

7月に開院した新病院に
地域住民、そして世界中の医療関係者が注目！

●病院把手の細菌検査



※設置：2010年7月21日/2012年1月16日（写真）



「私が銅の抗菌・殺菌作用に関心を抱いたのは、5年ほど前のことでした」と千代反田理事長は振り返る。その作用を新病院の院内感染対策に活かさないかと北里大学医学部の笹原武先生に相談。医師や看護師など全スタッフへの理解を深めるため、銅による殺菌作用に関するセミナーを開催するとともに、2010年7月から「銅の抗菌・殺菌作用の実証実験」も実施した。院内のドアノブなど約20箇所に銅部材を試験的に導入し、定期的に細菌検査を行っていく。「この約2年間の検査により、院内感染のリスク低減に対し、銅製品導入の手応えを得ましたし、医師や看護師の銅の殺菌作用に関する共通認識はかなり深まりました」と千代反田理事長。そして、この実証実験結果を、同病院の切通（きずし）医師が第27回日本感染学会で発表し、多くの医療関係者の注目を集めることとなった。

定期検査の結果、銅部材では細菌の繁殖が抑制されていた

銅合金により交差感染伝搬経路を遮断「人と環境の両面から院内感染対策を」

銅部材の導入箇所については「患者さんが接触する経路を考え、そこに徹底して銅部材を取り入れて抗菌・殺菌し、細菌の伝搬を遮断するようにしています」と千代反田理事長。また、設備面だけではなく、人の意識改善こそ重要なポイントと考えられている。「院内感染対策としては一般的なことですが、清掃による清浄度の改善、消毒による清潔環境の維持を徹底します。例えば手洗いなどは基本中の基本でしょう。最も大切なのは、必ず徹底すること。全医師・看護師、職員には研修会などでつねに意識を高めていますし、また、患者さんにもVTRなどでわかりやすく説明して実践いただけるように呼びかけていきます」。

人と環境、その両面から徹底することで、新病棟の衛生管理はより安心できるものとなり、医療の質の向上へと結実していく。

